河北新報
ONLINE NEWS

＜震災遺構＞門脇、大川両小の保存是非アンケート

東日本大震災で被災し、宮城県石巻市の震災遺構候補に挙がっている門脇、大川両小について、市が月内に保存の是非を聞く市民アンケートを実施することが５日、分かった。亀山紘市長は結果などを基に、年度内に保存の可否を決める見通し。

関係者によると、市は門脇、大川両地区に住所がある人と、市全体から無作為抽出した１８歳以上の２０００人程度を区別し、それぞれ調査する方法を検討。

質問内容は（１）両校舎を残す（２）両校舎を解体する（３）門脇小を残す（４）大川小を残す－の四つの選択肢から答えを選ぶ案が浮上している。

市は８日、両校舎の保存手法などを検討する震災遺構調整会議を開催。アンケートの方法や対象者、質問内容などを固め、今月下旬の郵送、１１月の集計を目指す。

大川小の遺族らの間では「できるだけ多くの市民に意見を聞くべきだ」「保存の賛否だけを問うのではなく、遺構として残す意義をしっかり考える必要がある」などと異論も出ている。

亀山市長は７月１０日の定例記者会見で「両校を同列で考える。調整会議の検討結果やアンケートのデータを示し、震災遺構について市民と対話することも必要」と述べた。

2015年10月06日火曜日